

# 西水美恵子

(前世界銀行副総裁)

## 『国をつくるという仕事』



小さな国ですよね。

■ブータンは人口約70万人、熊本市とほぼ同じ規模ですが、国王はいつも国内を歩き、国民全員の顔と名前を知っています。驚くほど立派なリーダーが次々に生まれています。私は応援のため本の印税を王妃がつくった「タラヤナ財団」に寄付しています。貧しい家庭の児童の教育費になります。

——日本に救いはありませんか？

■インドなどは親や祖父母の世代が宗主国から民主主義を勝ち取った国ですから1票を大切にします。日本は敗戦後、アメリカから銀のお皿に載せて民主主義をいただいたから、ありがたみが薄い。昨年までは日本に来るたびにホームレスが増え、貧困が年々増えていくのに驚きました。でも、今年の総選挙で随分雰囲気が変わりましたね。今までの利権まみれの職業政治家ではない、本気で何かをやるという志を持った人がたくさん国会議員に選ばれた。政権交代は変化のきっかけです。上からの視線ではない、下から組織を支えるのだ、という良いリーダーシップが日本の若者に育ってきています。日本もきつという方向に進みますよ。

(聞き手)長田達治・社団法人アジア調査会事務局)

——世界銀行に23年間勤務、副総裁で退職されましたが、日本の援助のやり方に疑問を持ったとか？

■南アジアの国に向けた2国間援助と国際援助機関の援助を世銀でコーディネートしていました。例えば対インド援助だったら、どんな国でも自国とインドの双方のためになる援助戦略を考えて実施します。ところが日本には戦略がない。

——治水事業にカネを出せ、などの事業特定が必要というのですか？

■いいえ、個別プロジェクトは戦略ではありません。インド国家が持つ政治・経済

リスクは何か、それが顕在化したとき、日本にどう影響するか、を考えるのが戦略です。インドのリスクは財政赤字で、その裏には州政府の汚職、特に電力部門の汚職がある。あの凶体の大きな国が財政破綻したら日本も他のアジア諸国も大変な影響が出る。だから財政赤字を根本的に減らすために、汚職撲滅を援助条件にする。このよう

## 「良いリーダーシップ 日本の若者にも育つ」

いる日本を見て、心の豊かさ、他人への思いやり、優しい国民性の素晴らしさを書き残し、日本を桃源郷と呼びました。でも、日本人は富国強兵で物づくりにばかり一生懸命やって心を忘れてしまった。物があふれるお金持ちの国をつくる。初めて精神的な幸せの大切さに気がきました。そして、ブータンを桃源郷というようになった。



出版 英治 1890円

気が変わりましたね。今までの利権まみれの職業政治家ではない、本気で何かをやるという志を持った人がたくさん国会議員に選ばれた。政権交代は変化のきっかけです。上からの視線ではない、下から組織を支えるのだ、という良いリーダーシップが日本の若者に育ってきています。日本もきつという方向に進みますよ。

(聞き手)長田達治・社団法人アジア調査会事務局)